

府民の個人情報漏えいや人権など問題は山積

大阪版市場化テストがひそかに進行

大阪府は、昨年3月大阪府の全ての業務(約1500業務)をホームページでオープンにし、市場化テストの対象業務選定の参考とするため民間から提案を募集、その結果、提案総数は106件にも及びました。企業名すら明らかにしない匿名業者も多くみられます。監理委員会は、昨年12月、これらの提案内容から7業務を新たな対象業務として選定し、5月21日から7月22日まで提案を公募しました。「宅建業免許申請受付等業務」には11件、「税務業務」には8件など全部で48件の提案があり、この提案について審議する監理

委員会は、業者によるプレゼンテーション、担当部長とのヒアリングを8月20日から27日の間に4回「非公」で開催しています。財界・大企業へのビジネスチャンスが目的

9月10日公開で開催された第18回監理委員会(公民比較の審議)では、対象7業務のうち規模が小さく責任者の配置ができていない業務の疑いもたれられた理由で「医薬品承認申請受付等業務」は民間開放しない、それ以外の6業務を民間委託すると決定しました。傍聴者から「一つだ

企業、財界です。公の方がいいと分かっているにも民間業務をまかせるようにという挨拶には、決して府民のためではなく、財界・大企業にビジネスチャンスを広げるための監理委員会であるということがわかりました。

問題点を府民に知らせ運動を展開

9月24日大阪府は、監理委員会

法外「運用方法」については検討

助産師手当など処遇改善を要求

病院労組 分娩業務従事者の手当の交渉

また、橋下知事が主張する「地方分権」は、「道州制移行型分権化」だとのべ、道州制とそれにもなう府政の空洞化、府のガバナンス(統治機構)化など特徴をあげました。道州制そのものについても「大阪以外の他府県からは総スカンの状態で実現への道のりはきわめてきびしい」と指摘し、関西の「州都」としての府庁WTC移転についても「関西財界との道行き心」だ」とその無謀ぶりを批判しました。

9月15日(火)府立病院労組では、法人本部より提案のあった「医療体制等確保手当創設」とりわけ分娩業務に従事する手当について、法人本部と職場の助産師も参加した団体交渉を行い、提案内容の改善、助産師など医療従事者の処遇改善を要求しました。

今回の提案は、国庫補助制度の創設に伴い、医師、助産師及び助産師免許を有する看護師である職員が分娩業務に従事した場合、従事した回数1回につき、出産証明書(死産証明書、死胎検案書を含む)を作成した者に限り10,000円を支給するとしています。

「明日からどうする、新型インフルエンザ！」感染症対策、公衆衛生・医療の充実をめざして
日時：10月4日(日)13時30分～16時30分
場所：大阪府立社会福祉会館
講演：「新型インフルエンザの現状と問題点、感染対策について」
講師：羽田内科医院 羽田同医院長

構造改革路線の橋下府政を転換しよう

9月17日、府民要求連絡会が「9月府議会に向けた

二宮厚美・神戸大学教授が「政権交代後の日本と大阪橋下府政」と題して講演がされました。

また、橋下知事が主張する「地方分権」は、「道州制移行型分権化」だとのべ、道州制とそれにもなう府政の空洞化、府のガバナンス(統治機構)化など特徴をあげました。道州制そのものについても「大阪以外の他府県からは総スカンの状態で実現への道のりはきわめてきびしい」と指摘し、関西の「州都」としての府庁WTC移転についても「関西財界との道行き心」だ」とその無謀ぶりを批判しました。

「道州制移行型分権化」だとのべ、道州制とそれにもなう府政の空洞化、府のガバナンス(統治機構)化など特徴をあげました。道州制そのものについても「大阪以外の他府県からは総スカンの状態で実現への道のりはきわめてきびしい」と指摘し、関西の「州都」としての府庁WTC移転についても「関西財界との道行き心」だ」とその無謀ぶりを批判しました。

堺市長選挙 小林宏至さん健闘及ばず

9月27日投票で行われた堺市長選挙は、暮らしを応援する市政の実現を訴えた「住みよい堺をつくる会」の小林さんが健闘するも及びませんでした。橋下知事が後押しする候補者が現職を退け当選する結果となりました。府職労は「つくる会」の小林さんを支援し行動しました。

小林さんは、国保料や介護保険料の値下げなど、市民生活にかかわる政策を訴え、市民に共感を広げました。選挙の最終盤は、他の候補者も市民要求に応えるポーズをとらざるを得ないところまで追い込みました。

引き続き、民主府政・市政の実現をめざし取り組みをすすめていきます。



府政問題学習交流会

府民要求連絡会 府政問題学習交流会

9月17日、府民要求連絡会が「9月府議会に向けた

二宮厚美・神戸大学教授が「政権交代後の日本と大阪橋下府政」と題して講演が

また、橋下知事が主張する「地方分権」は、「道州制移行型分権化」だとのべ、道州制とそれにもなう府政の空洞化、府のガバナンス(統治機構)化など特徴をあげました。道州制そのものについても「大阪以外の他府県からは総スカンの状態で実現への道のりはきわめてきびしい」と指摘し、関西の「州都」としての府庁WTC移転についても「関西財界との道行き心」だ」とその無謀ぶりを批判しました。

9月27日投票で行われた堺市長選挙は、暮らしを応援する市政の実現を訴えた「住みよい堺をつくる会」の小林さんが健闘するも及びませんでした。橋下知事が後押しする候補者が現職を退け当選する結果となりました。府職労は「つくる会」の小林さんを支援し行動しました。

小林さんは、国保料や介護保険料の値下げなど、市民生活にかかわる政策を訴え、市民に共感を広げました。選挙の最終盤は、他の候補者も市民要求に応えるポーズをとらざるを得ないところまで追い込みました。

引き続き、民主府政・市政の実現をめざし取り組みをすすめていきます。



府政問題学習交流会

9月27日投票で行われた堺市長選挙は、暮らしを応援する市政の実現を訴えた「住みよい堺をつくる会」の小林さんが健闘するも及びませんでした。橋下知事が後押しする候補者が現職を退け当選する結果となりました。府職労は「つくる会」の小林さんを支援し行動しました。

引き続き、民主府政・市政の実現をめざし取り組みをすすめていきます。